助成事業実施報告書

2023 年 4 月 25 日

助成事業実施報告書

団体名 おおいずみっ子食堂

代表者・役職名 氏名 代表 杉本 春美

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書（精算報告書以外）は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真（2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します）を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

お弁当配付・フードパントリー活動

2. プロジェクトの内容（※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可） 300文字程度

- 公共施設にて毎月1回第4土曜日 昼食時に食材・学用品等を配付し受け取り可能の方には取りに来て貰いWワークなど受け取り困難の方には夕方にお届けしました。
- 学校の長期休業中 お弁当提供の情報あり、餃子の王将弁当・吉野家牛丼弁当などを配付しました。
- 17 世帯 ➡ 20 世帯に増加する （離婚・低所得者家庭） コロナ禍の影響です。
- 公共施設での会食形式は取れませんでしたが、手作り弁当・購入弁当・フードパントリー活動を沢山の企業・地域生産者さんの協力をいただき活動を行うことが出来ました。

3. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度

◎ スタッフに民生児童委員・母子家庭代表者・地域ボランティアの方々の声掛けにより、いろんな方々と繋がり配付世帯が増えました。 大泉町の特色でもある外国籍の方にも繋がりラインでやり取りをしています。

◎ 実施回数＝年/14 回 参加者＝ 子ども 600 名・大人 330 名 合計 930 名 （延べ人数）

◎ 社会的変化として ➡ SDGs 継続的に活動している団体にと… 町民よりプレミアム商品券の提供がありました。 新聞をみて、新鮮野菜だが出荷できない様な野菜提供の情報も頂きました。生産者さんには消費ロスにも繋がり相乗効果がありました。

又、県のこども食堂ネットワークからの情報では子ども食堂へと SNS の情報など興味を持った方から地域別に提供品情報が入り、ナビを使用して軽自動車であちこちへと提供品を受け取りに行きます。

4. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字程度

課題 ＝ 活動を開始して7年目です。

元、民生児童委員を中心にスタートした活動でしたが、スタッフも高齢化しております。

友達の輪で拡大した開設時 のスタッフ 25 人から現在は、15人と減少しています。

長く継続して行くためにも、高齢者の気持ちを一つにして活動して行くには無理をしない。困窮者が増加していますが、配付世帯をあまり拡大せず、現状維持を考えます。

この、現況は国・県内においても見られる事象で、地域ボランティア・自治会・老人会でも同じ悩みを抱えています。

ポジティブ思考で諦めずに、いろんな方々との繋がりを大切にしながら世の為人の為に 子どもたちの笑顔を見るのを、楽しみに継続的に活動して行きたいと思います。 コロナ対応が5類になり公共施設での、会食ができるようになりましたら、こどもの居場所作り・孤食防止に力をいれ 現在繋がっている世帯との信頼関係にも努めてフードパントリーも少量になってしまうかと思いますが、ボランティア有志を募り活動して行きたいと思います。

5. 参考資料

プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等のデータ。活動の様子がわかる写真などを必ず別途ご提供ください